

企業ニュース 日本ゼオン

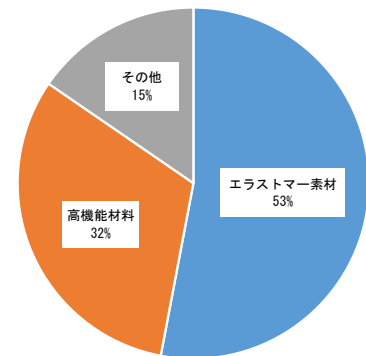
(東証1部: 4205) <https://www.zeon.co.jp/>

作成者: 兵藤三郎

ナフサ留分の総合利用を基軸に事業展開

1950年、古河電、浜ゴム、日軽金の出資により塩化ビニル樹脂を製造する会社として設立。1959年、合成ゴムを日本で初めて国産化した。当時は、天然ゴムは100%輸入に頼る一方、自動車産業などの発達で需要が拡大、国産合成ゴムのニーズが増大していた。合成ゴムの原料はナフサを精製して取り出す留分から抽出するブタジエン、イソプレンなど。ゼオンはこれらの原料を高純度に抽出する独自技術を持ち、合成ゴム以外への用途展開も行ってきた。現在の事業領域は右図の通り。エラストマー素材では合成ゴム、合成ラテックス、化成品など、高機能材料では電子材料・電池用材料や医療器材などを製造している。高機能材料は、水島工場で光学樹脂の生産能力を増強（21年7月完工予定）し、拡大している需要を取り込む方針。

◇21.3期売上高構成比



(出所) 日本ゼオン資料よりCAM作成

電池用材料などの成長加速

21.3期の連結業績は売上高が3,020億円、前期比6%減、営業利益が334億円、同28%増。下期は合成ゴム事業などの需要が回復傾向となるも、上期の落込みは補えず減収となった。一方利益面は、高機能材料での出荷増や製造固定費の削減効果に加え、原料価格が比較的安価で推移した恩恵を享受し、大幅に増加した。1月29日（第3四半期決算発表時）に公表した会社計画に対しても売上高で20億円、営業利益は44億円上振れた。販売増効果に加え、不急費用の圧縮などの効果も寄与した。

22.3期連結業績の会社計画は、売上高が3,100億円、前期比3%増、営業利益が330億円、同1%減。エラストマー素材、高機能材料ともに需要は堅調とみているが、定修費・減価償却費（能力増強投資などで前期比18億円増加計画）などのコスト増加を見込む。会社は減益計画だが、堅調な電池需要（EV用電極、セパレーター向けバインダー）や、自動車生産の回復の状況などを勘案すれば保守的な計画であろう。

[株価動向・投資判断]

株価は決算発表後上値の重い展開だが、P E Rは13倍台の水準で、需要回復の確認に伴い反発が期待できよう。

<4205 ゼオン 業績:日本基準>

[今期予想の配当金は発行会社予想]

	売上高	営業利益	経常利益	当期利益	1株利益	1株配当
	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	円	円
20.3	321,966 (▲5)	26,104 (▲21)	28,744 (▲21)	20,201 (9)	92.4	21.00
21.3	301,961 (▲6)	33,408 (28)	38,668 (35)	27,716 (37)	126.7	22.00
22.3 予	310,000 (3)	33,000 (▲1)	35,000 (▲9)	25,000 (▲10)	114.3	24.00



[主要株価指標] (売買単位: 100株)	
株価 (2021/6/25)	1,542 円
年初来高値 (高値日)	1,842 円 (21/3/26)
同 安値 (安値日)	1,438 円 (21/1/4)
予想 P E R (22.3 予)	13.5 倍
1株株主資本 (PBR算出用)	1,349.9 円
P B R	1.14 倍
予想配当利回り	1.56 %
(1株当たり配当金年24.00円)	
R O E (21.3)	10.0 %
発行済み株式数	23,708 万株